

会議名 (審議会等名)		平成21年度 第2回 川西市産業ビジョン推進委員会 商業振興方策検討部会		
事務局 (担当課)		市民生活部 地域活性室 商工・観光課		
開催日時 開催場所		平成21年9月18日(金) 午後6時～ 市役所4階 庁議室		
出席者	委員	佐々木部会長 上野部会委員 高畑部会委員 河野部会委員 田中部会委員		
	その他	オブザーバー 川西市商工会 事務局長 コンサルタント 関西計画技術研究所 主任研究員		
	事務局	多田市民生活部長 大森地域活性室長 大南商工・観光課長 丸野課長補佐 福美主任		
傍聴の可否		可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1. 地域社会と商業の関わりについて 2. 地域における商業振興の具体方策について 3. 他市における地域商業振興方策について 4. その他		
会議結果		別紙のとおり		

1. 地域社会と商業の関わりについて

部会長

本日は第1回目からの議論を引き継ぎまして、そして次回へ繋げていくという位置づけで3つ程議題を設定させていただきました。

前回の議論を振り返りますと、商業が川西市の地域社会にどのような貢献を果たすことができるのかということでご議論いただきました。これは商品販売の面と、それに関わらない面など様々な視点からご意見をいただきました。

もうひとつは、最終的には大型店と中小小売店が、今日的な意味合いでどのように共存していくのかということです。それは競争に任せていてはなかなか上手くいかないということで、何らかの共存共栄体制、仕組みづくりを進める必要があるというご意見も頂戴いたしました。大きくはこの2点に集約されていると思います。

資料「第2回商業振興方策検討部会について」の説明

それでは議題1についてご意見を賜りたいと思います。ただ、「地域社会と商業の関わりについて」となると漠然とした、大雑把な議論になってしまいますので、商業が果たす地域貢献に関する補足的なご意見であるとか、大型店と中小小売店の共存共栄の仕組みづくりをどうしていけばいいのか、この2つに絞ってもう少しご意見を頂ければと思います。

部会委員

消費者、特に若い人は週末に大型店で買い溜めをして、不足分を近所の小売店で求めているように思います。

私は、市北部で商売をしておりますが、近所のスーパーが10月で閉店します。そのスーパーもわりと流行っているように思っていたのですが、消費者は安さを望みますので、チラシを入れた時は満員になりますが、それ以外の日はお客さんが少ない状態だったようです。

どこの大型店もそのような状態だとは思いますが、大型店は資本力で、カバーできますが、小売店は利益を生むことが難しい状態にあります。消費者は、大型店が閉店すると「不便になる」と言いますが、やはり便利で安い方に行ってしまうので、地元の小売店などはよっぽど特色を出さないとやっていけません。

大型店も、薄利多売とは言ってもひとつの地域では多くを売ることが大変なため閉店されたのではないかと思いますし、地域の小売店は商売がやりにくい状態になっています。

また、閉店になると、お年寄りが生活しにくくなると思います。その分を地元の小売店が配達などでフォローすることになりますが、このままだと町自体が成り立たなくなると感じています。

地元や地域が住むだけの場所になってしまい、商業自体も成り立た

なく、お年寄りにも住みにくいところになってしまいます。

また、地域で商売をやりたくてもやれない状態になりますので、ただ住むだけの地域になれば、後から来る人は「ここは何も無い不便な地域だな」という印象になります。そうなると地域自体が活性化しません。しかし、商業者だけではどうしようもないのです。我々もどのように取り組んでいけばいいのかわからないですし、いろいろな取り組みが出来ない状態にあります。

部会長

このまま、地域において商業が衰退することでどのような問題が起きているのかということについてご発言をいただければと思います。今のご発言からは、地域商業が衰退すると色々なスーパーや量販店があっても、遠方まで買物に行かなくてはいけないし、非常に買物に関する利便性が担保できない地域社会の中で、色々な問題点が出てくるということです。そのことによって、町そのものが寝て起きて住むだけのものになってしまうという非常に大きな変化を経験することになります。

それでは、引き続き近隣商業が衰退するとどのような問題が発生してくるのかということで、ご意見をお願いいたします。

部会委員

空き店舗が増えると商店街が過疎化してしまいます。そのような中で、道路幅が広いところにはコンビニエンスストアができてくるという状況があります。市全体をみると、商店街もほとんど空き店舗という状況の中で、ご商売をされている方が少なく後継ぎがないという状況だと思います。その一方で、大型店やコンビニエンスストアが増加しており、コンビニエンスストアでは野菜なども売るなど、その形態も変わってきています。

また、商店街がなくなると夕方5時6時くらいになるとさびしくなってきました。昔は商店街のアーケードがあり街灯が明るかったのですが、今はスーパーの明かりのみという状況だと思います。そのような中で、どうするのかというのは非常に難しい問題です。お客さんでも若い人は安くて色々なものが買えるところ、お年寄りは近いところで買いたいということだと思います。

部会長

空き店舗が増えて地域商業が衰退すると、町全体が衰退していくが、それでいいのかというご意見でした。もうひとつは、町で生活をして商売をする商業者の存在が町の安全性を保障しているという話もありました。

部会委員

私は住んでいるのがこの辺りなので、北部の状況がよくわかりませんが、この辺りでは自営業者がかなり減っていると思います。

商業については飲食業も含まれると思います。先程の話は生活必需品に関することだと思います。これに関しては、この辺りで駅前なので阪急を始めいろいろなお店があります。少し南にいてもそれなりにお店はありますので、南部は大変便利で人もたくさん集まっていると思います。

中心地域ではジャスコが撤退しましたが、まだその他に大型店舗があり、ある程度人が入っております。阪急と他では購買層が違っており、阪急以外の利用者は比較的年齢層が高いように思います。

また、ジャスコがなくなったことで、そのお客が他へ流れて店舗によってはお客が増加しており、この辺りは住民にとっては非常に便利なところだと思います。アステ川西は地下がかなり寂れており便利なところでも流行らない店があります。中心地域については、あまり不便は感じませんし、むしろ生活必需品の買物については選択肢が増えていると思います。

飲食業についても、この辺りでは店自体が増えているように思います。年齢層によって行くところが違うと思いますが、昔からの店はある程度常連さんがいるので経営はできているように思いますし、若い人が行く飲食店もかなり増えているように思います。飲食業と普通の小売店については捉え方を分ける必要があると思います。昼は生活のための商業、夜はストレス発散、リフレッシュのための商業とこの地域は混在しています。全体でみたら減少傾向というより、維持もしくは上向きのように思います。

部会長

今のご意見から、中心市街地の感覚と北部エリアの感覚が大分違うということがわかります。中心地だけを見ていたら見えてこない部分がありまして、我々としては、市域全体を見る必要があると思います。

部会委員

私が住んでいるのは北部の住宅地ですので、中心部の賑わいには縁がありません。生活のために我々は消費活動をするわけですので、生活のために商業を利用するのは当たり前のことだと思います。

確かに店舗数が減って、シャッターが下りていると寂しいという気持ちにはなりません。シャッター自体も見栄えがパッとしないので、余計に寂しい感じがします。この住宅地の中の中心を走る道路沿いに昔は八百屋さんが2軒ほどありまして、奥のほうに住んでいる人も非常に便利でしたが、大分前になくなってしまい、駅前の大型店まで買いに行かなくてはいけなくなりました。

コンビニエンスストアも以前は3軒ありましたが、今はつぶれてし

まい、少し不便になっています。ですから、コンビニエンスストアが増えているという感覚は私が住んでいるところではあまりありません。私自身電車に乗って行き来をしておりますので、駅前的大型店を使うことが多いですが、毎日だと飽きてきますので、他の店に行きたいという気持ちもあります。大型店だと画一的になってしまう部分もありますので。ただ、実際便利なところに大型店がありますので利用することは多いです。

商業が衰退していると言われますが、人口自体も頭打ちでいずれ減少するかもしれませんが、また、高齢化で年金生活者も増えるため一人ひとりの購買力も落ち込んでくると思いますし、若い人は仕事がないなどの問題もあり、全体的に購買力が落ちていると思います。それで「買え」「買え」といわれてもなかなか買えないという状況もあると思います。長い目で見たら、購買力の低下というのは自然な流れだと思いますので、バランスのとれた取り組みが必要になってくると思います。

部会長

地域における実感をどのように捉えるのかということが難しいところでもあります。それぞれの温度差もあります。しかしながら、毎日同じ店でしか買えないという状況も問題だということで、そこから多様な商業が出来る限り存続して行く仕組みが望ましいということになります。また、最後に述べられましたように、需要が落ち込み購買力が減少する中で、バランスのとれ方が振興方策を打ち出す上で求められて参ります。

ここまでは基本的には商業が地域で果たす役割として、買物などの経済的なものを中心にご意見を頂きましたが、今後は経済的な役割以外の面で、中小小売店、商店街が衰退していくなかでの問題点などをお聞きしたいと思います。たとえば、祭りなどが分かりやすい事例になってくると思いますが、その点について実情をお教え頂ければと思います。

部会委員

市北部には昔から「稲荷法会」が9月3日にありまして、今までは青年団があり、青年団自体が近隣の商業者に寄付を募ってやっていたのですが、コミュニティという団体ができて、そこも祭りをするということ、コミュニティの納涼祭や文化祭が地域の祭りになってしまいました。今までは「稲荷法会」がその地域の祭りという風に捉えられていましたが、コミュニティの祭りが出来てしまったばかりに、「稲荷法会」が地域の祭りではなくなりました。コミュニティのイベントなどにお金が出てしまっていて地域の祭りに対する寄付も集まらない状態になっています。

もともと住んでいた方とよそからうつってきた方は、表面上仲良くやっているようでも色々と問題もあります。コミュニティの方は本当

に地域をよくしようとがんばっておられますが、高齢の人は若い人と話が合わず反発してしまっている部分もあります。そのようなこともあり、地域自体まとまりがあるようで、まとまりがなくなっています。

部会長

地域との関わり、コミュニティとの関わりという点からご意見を頂きました。また、寄付の問題なども出て参りました。

部会委員

イベントについては夏祭りを毎年やっていますが、3年前までは同じ日に重なっていました。ただ、それでは人の取り合いになるということで、1週間ずらして開催するようにしています。我々の目的は地域全体をよくしようというものです。ただ、商業者は地域全体ということではなく、まちに人を呼ぼうというものであり、目的が元々違うと思います。

先程もお話しがありましたように、もともと地元の祭りがあって、そこにコミュニティが新しい祭りをはじめ、色々な問題が生まれたというのは、地域によって違ってくると思います。うちの地域では従来からの神社のお祭りもあり、コミュニティのお祭りも開催しております。地域により質が違います。我々の地域は自営業者さんや大型スーパーから協賛金を頂き、その代わりにプログラムを作って名前を載せていただいております。自営業者さんも快く協賛金を出していただいておりますし、少なくとも200程度の商業者さんからご協力をいただいております。

自営業者さんも地域あつての商売ということでお金をだしてもらっています。年2回程度ですので、商業の活性化とは違いあくまでも貢献ということだと思います。

部会委員

お祭りについて、コミュニティと我々商業者の目的が違うという趣旨は理解しております。今、お祭りはだんだん少なくなってきたていいます。商店街は昔、大売出しという形で活性化を図っていましたが、商店街自体が衰退する中でそのような売出しができなくなっているという現状があります。今では中心市街地活性化として、県や市の助成金を活用しながら地域全体を巻き込んだ取り組みに変わってきていると思います。祭りと言っても、川西には各地域に神社などがあり色々なお祭りがあります。この間、池田のがんがら火祭りに行ってきました。立派なものだと思いました。祭りを年に1回2回しただけではまちの活性化にはなりません。祭りは各地域でつくって年に何回か開催していくタイプに変わっていく、また、神社仏閣も古い祭りも地域と一緒にやっていくように変わっていくのではないかと考えております。

部会委員

私の地域では納涼祭をしてお店を出すのですが、一般のグループも商店の方もお店を出します。その中で一般グループが出すお店より、商業者の方が出すお店の方がにぎやかです。また、普段はお店の中に入っている人が外に出てこられますので、接触の機会にはなっていると思います。

ただ、ある程度負担感があるようで、以前は商業者の方が炊き出しをしていましたが、今は我々のグループがやっているという感じで、どちらかというとも商業者の方は消極的なイメージがあります。

それから、お祭りではありませんが、商工会といっしょになって地域通貨を何年かやっていますが、結局今では運営を我々だけがやっている形で、お店で地域通貨は使えますが、商業者の方は大変消極的な印象で、もう少し協力して何かできたらなと思っています。

部会委員

その地域通貨をつくったのは商工会ですよね。

部会委員

つくられたのは商工会かもしれませんが、その後の運営はこちらがやっています。

部会委員

ただ、商工会の後押しがあっただけでできたものです。地域通貨の取り組みは良いと思います。商店会の会長さんもがんばっておられて、良い取り組みだと思っています。

部会委員

出来たときは商工会さんががんばっておられましたが、その後は商業者の方は消極的になっているように感じます。

部会委員長

商業者の地域への関わり度合いが、地域住民から見ると消極的にうつるということのはっきりとおっしゃられた訳で、だからこそ消極的にならない、積極的に関わっていける仕組みづくりが大事になってきます。

本日の議題の3つ目で、他市の条例を少し見ていただきますが、まさに、如何に積極的に地域に関わっていただくか、そこを担保するような制度が必要だというご意見になってくるのではないかと思います。

それでは資料1に移りたいと思います。商業者が地域との関わりについて消極的にならざるを得ない理由が資料1に出ているように私は思います。今、商業が地域社会で果たす役割や商業の衰退によって地域に出てくる問題についてご意見を頂きましたが、そこからさらに一歩進めまして、商業を維持して行く中で、商業の組織化ということが重要になって参ります。事業者団体、組織そのものが衰退していくことも地域にとって大きな問題となってきます。その辺りの実情について、今まで出たご意見も踏まえながら、オブザーバの方に教えて頂ければと思っております。資料の説明やご自身のお考えなどもお聞かせいただければと思っております。

オブザーバー

まず地域通貨の件についてですが、地域の方に理解をしてもらうのに相当の期間を要しました。今はご理解を頂きましたが、逆に地元商業者の方が消極的になってしまっているように思います。それでも参画はして頂いております。

商工会から見た地域通貨の目的は、地域の商業者と地域住民が顔見知りになって欲しいというものです。商業者と地域住民が顔見知りとなるきっかけに地域通貨を使って欲しいというのが、この制度の趣旨になるのです。

ただ、当然のことながらいつまでも商工会が運営できませんので、運営を地域にお任せしましたが、また時期がきましたら協力していきたいと思っております。

お祭りについては、一種の感謝セールだと思っております。人を呼び込むためのイベントというより、地域の方に1年間のご愛顧を感謝するといいますか、それが福引であったり、イベントで地元の方に楽しんで頂くというものだと思っております。それで商業者自身も楽しみ、周りの方が見に来るとというのが、全ての大きな祭りの原点ではないかと思っております。

原点は感謝セールだと思っておりますが、今の時代に全ての方にそれが受け入れられるかとなると別問題だと思っております。ただ、感謝セールをやろうとしても、それだけの商業者の方がおられないので、思ったほどのことができない状況です。また、経済的な問題もあり、難しいというのが現状ではないかと思っております。

もっともっと地域の方が地域の商業者を育てて頂いておれば、それだけの力を蓄えられた訳ですし、後継者も育てていたと思っております。祭りの1週間は商売を放ったらかしにということをよくニュースなどで聞きますが、そのようなことをやっても十分商業者の皆さんがやっていけるような土壌、「また来年の祭りまでがんばりましょう」というコミュニケーションの現れが祭りではないかと思っております。

しかし、地域力が弱くなり、双方に歪みが出てしまったのではないかと思っております。

事務局

資料1 について説明

部会長

商工会の会員数の10年間の推移について、やはり理解としては、新たに開業されるような自営業の方はわりと加入されるが、チェーン店はほとんど加入しないということなのではないでしょうか。大型店やチェーン店の加入はほとんど見られないということなのではないでしょうか。

オブザーバー

はい。そうです。

部会長

あと、商工会の組織力が弱まってくると、市内の経済や経済以外の社会的な面で、どのような影響が出てくるのでしょうか。経験的なところでよろしいので、商工会以外の方にもわかるようにお示しいただけるとありがたいのですが。

オブザーバー

まずは地域の店舗数が減ってきています。特に中心部以外の近隣商業については、最低限必要なものが揃っていない状況が続いておりますので、地域内の利便性が低下していると思います。

また、以前ほど商業組織に活力がありませんので、従前から行ってきたイベントや売り出しができなくなっております。たまに実施しようとしても、手伝う方が少なくなってきており、維持するのが大変な状況で、参加されている方もいつも一緒に将来的にどうなるのかと感じております。

また、商工会の別の部会で、若い方、特に製造業の方に出会いの場がない、結婚される方が少ないということで、そのような場をつくる事業を考えたかどうかという話が出ております。

実際、篠山でもそのような取り組みをしているという話を聞いております。昔は、顔の見える商売をしておられる方が良い意味で世話焼きとして活躍されていましたが、今はそのような方もいなくなっています。そのような部分も地域の商売をされていた方が担っていたように思います。

部会長

ここまでの内容を少し整理させていただきます。商業者と地域住民の間に温度差があったことは事実であったと思います。ただ、温度

差はあるものの、地域商業が衰退していくなかで、経済的側面では、特に中心部以外の地域で利便性が損なわれております。また、非経済的な面では、まちの安全性をどのように担保していくのか、さらに人間の感情としてまちが寂れていくことに寂しい思いがあるという点、祭りの運営や寄附の状況など、様々なご意見が出されました。

商業組織という面から商工会の状況を見ていただきながら、商業の衰退が市内の経済や非経済の面に及ぼす影響についてご理解をいただけたかと思っております。まだまだこの議論を続ける必要がありますが、本日は大型店サイドの委員さんが欠席されておりますので、再度大型店サイドの2名の委員も含めて詰めて行きたいと思っております。

2. 地域における商業振興の具体的方策について

部会長

温度差があるとは言え、やはり地域商業の衰退は問題であるというコンセンサスはとれていると思います。そう言ったなかで、近隣商業を中心としながら、地域における商業を振興していくためにはどうすればいいのかという振興策についての意見交換が必要になって参ります。もちろん自助努力というのは大前提になりますが、商業振興の方策ということで、側面からどのような支えが必要になってくるのかということ、本日はざっくりばらんに意見交換をして頂ければと思います。

部会委員

この頃、朝夕に散歩がてらに歩いている方が多くなっております。北部は神社仏閣などの歴史的なものがたくさんありますので、地図をつくって自分たちの店も記載しながら近隣の人にアピールをしようと思っております。商業者だけではなく、コミュニティを巻き込んで、地図を作り、ハイキングや散歩をしている人に配布することで地域を知ってもらうようにしようと思っております。

部会長

できましたら、公的な政策としてどのようなものが必要なのか、あるいは欲しいものを出して頂ければと思っております。

部会委員

大型店の出店が多くなり、地元の商店街が衰退したという中で、お祭りなどの地元の行事をする際も、大型店がなかなか関与をしてくれない状況があります。特に大店法が廃止されて、大型店が出店しやすい状況で、中小小売店は大変だと思います。

我々商業の立場かでは、高槻市のように条例をつくっていただきました

いということ、独自に3年前から勉強しております。

大型店が商店会に加入して頂き、商店街とともにまちの活性化を図っていくために、市で条例化して頂きたいと思っており、商工会さんや行政にもお願いしないといけないと考えております。

部会委員

なかなか難しいと思います。我々一般市民から見ると、どのような内容の条例を目指しているのか全くわかりませんし、本来そのような条例が必要なのかどうかもわかりません。だから、なんとも言い様がありません。

部会委員

中小小売店には長所もあるが短所もあります。一旦店に入ると何か買わないと出られなくなるとか、経営者の方がご病気で店を閉められたら、今までのサービスはゼロになってしまいますので、頼りにできるけど頼りにならない部分もあるように思います。冷やかし歓迎といったオープンな感じも欲しいですし、地域でのお店同士のネットワークというか、無理があるかもしれませんが、もう少し小売店同士がつながってもいいのではないかと思います。

また、先程お年寄りに配達をしているというお話もありましたが、もう少し積極的に取り組まれたらどうかと思いました。便利屋という面は求められているものですので、ネットワークの中で便利屋的な機能があればいいのではないかと考えております。

オブザーバー

我々としては先程も申しあげたように、地域を活気のあるものにするには、大型店さんを抜きには無理だと思っております。だから「一緒に入ってやってください」という呼びかけをしていますが、このような経済情勢の中でなかなか難しいようです。だからこそ、もし必要であれば条例をと考えております。条例にどれだけの力があるのかわかりませんが、我々もそれだけの責務が課せられる訳ですが、何か形のあるものと思っております。

大きかろうが、小さかろうが地域あつての商売ですし、大きければ大きいだけ社会的な責任も伴ってくると思っております。

部会長

この後、大型店さんのご意見も伺いながら詰めて行きたいのですが、それは次回以降となります。また、先程、部会委員からもお話がありましたように、そもそも条例が必要なのかという議論もこれからしていかなくてはなりません。

その前に、まず、条例というものが、大型店と中小店が共存共栄していけるという新しい仕組みということは今までの話の展開の中でご

理解をいただけたと思います。地域における経済組織の中に大型店等も加わってもらわないと、同じ土俵の上で共に栄えていきましょう、共に経済的活動や非経済的活動を進めていきましょうと、そのような仕組みをつくっていかないと地域社会の中で多様な商業が存続、持続して行くことは難しいと思います。

条例の資料として資料2～6がございます。本日は、大型店の委員もいらっしゃらないので、まずは資料2～6に目を通して頂いて、次回以降の議論に繋げて頂ければと思います。

3. 他市における地域商業振興方策について

部会長 資料2～6について説明

部会長

次回以降は資料3などをたたき台にしながら、その是非や応用について議論できればと考えております。

今後の予定としては、次回3回目には本日ご欠席の大型店さんのご意見を賜る時間を設けたいと思います。その後この条例について質疑応答や意見交換を進めて行きたいと思います。

第4回目では、先行して実施されている自治体の方をお迎えして、現状であるとかどのような形で条例の制定に向かわれたのか、条例がどのように機能しているのか等を説明して頂く、学習の場を設けたいと思っております。

それらを踏まえて、第5回目でさらに突っ込んだ議論ができればと思っております。その過程で他市の条例も参考にしながら、意見交換をして行きたいと思っております。何か言い残されたご意見などがありましたらお願い致します。

部会委員

まずは条例ありきということではないですね。

部会長

はい。

部会委員

商業の活性化に条例が必要であれば、我々市民も納得はできるのですが。他市の条例の内容も完全に把握はできていませんが、商業者にも責務があると思います。これを市がやることになるとそれは市の責任になります。その中で助成金などが求められていますが、助成金が主役になってしまうと、市民としては困ります。市の財政にも余裕がありませんのでよく考える必要があると思います。

条例をつくるという形で議論を進めていくのは問題があるように思います。

部会長

その点については、部会全体としても条例制定ありきで議論を進める訳ではありません。ただ、議論をする上で、他市条例の中身を見ないことには議論もできませんので、まずは勉強をして、他市の状況も踏まえて、第5回目に必要かどうかについて、原点に立ち返って議論を進めたいと思います。

4 . その他

事務局

次回の部会については、10月29日か11月5日で調整をさせて頂きたいと思っております。

各委員で日程の調整

事務局

それでは、次回部会については、一応11月5日で大型店サイドにも問い合わせをし調整をさせて頂きます。

部会長

次回以降も条例につきましても本音で議論いただければと思っております。色々な立場から忌憚のない意見をぶつけて頂いて、納得の行く形で議論を進めて行きたいと思っておりますので、その点何卒よろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。